

# OB会 だより



挑戦シリーズ  
No.27



## 定年後の人生

新しい道に挑戦し、輝いている仲間がたくさんいる。

その一人 小山千里さん 「ケーキ作り」に挑戦し、楽しんでいる。

10 数年前から、本を見ながらケーキをつくり楽しんでできました。原水禁大会のカンパ活動では、一回に 2~3 万円くらいのカンパができました。

3 年前、孫に ABC クッキングに行こうと誘われて、一緒に行き始めたのがきっかけで、お店で買うと 4000 円位のケーキも作れるようになりました。自宅で作るには、材料を揃えるのが大変。教室に籍を置かないと美味しい物が作れない！ だからみじかな材料で、作っては、時々職場に持っていきます。自分が食べると、大変な事になっちゃうね。

(小山さんは埼玉西協同病院に看護師として勤務しました)

## 新入会員紹介

よろしくお願ひします



### ♪♪高橋 典子さん♪♪

定年退職して1年が過ぎました。

いろいろ病気がありますが、病院にかかりながらも元気に毎日を過ごしています。昨年春より「東海道53次ウォーキング」のツアーに参加しています。ほぼ月に1回、10～15kmを歩いています。終了まで2年8ヶ月の長丁場です。

また昨年秋からは、規模・業種とも違う分野のアルバイトを始めました。医療生協しか知らない身なので、刺激もあり面白いです。

入会が遅くなりましたが、よろしくお願ひします。

### ♪♪山田 稲子さん♪♪

入会して間もなく総会、参加させてもらいました。総会での諸先輩方の元気な姿、発言はとてもよかったです。懐かしい方々に合せてうれしかったです。

参加後、私は新卒で1978年3月21日に旧中央医療生協に入職し、協同病院開院準備と4月オープンという貴重な経験をさせてもらったことがよみがえりました。その後川診、さいわい、協同、老健みぬまと通算37年間多くの方に支えてもらい仕事を続けることができました（育休もない時代だったなあ）。そんな中、先輩たちは各院所のOB会で飲み会やら、旅行したなどと聞くと羨ましく感じていました。しかし私の入職した協同病院にはそれがなかったのがさみしく感じておりました。

さて退職後は、第2の人生を始めたいと思い、NSにならなかつたらやりたかったこと染織を学んでいます。デイサービスの手伝い、子どもたちの結婚や看護、孫たちの誕生、母の介護など何かと用事はあるのですが、合間を縫って課題の作成、スクーリング参加等で楽しんでいます。藍染のためプランターや実家の畑に種を撒いたり、田舎で青い胡桃をもいだり、楽しみが広がっています。作品により化学染料も使うのですが、天然染料の持つアースカラーの美しさはほれほれしています。

健康年齢はあと15年はほしいところですが、欲張らずできることから、近場は歩くようにしています。次回また、新しい作品と皆様に会えるのを楽しみにしています。

### ♪♪柳下 礼子さん♪♪

私は昭和45年東北福祉大学を卒業し、所沢診療所にMSWとして入職しました。

所診に 13 年勤務した後、所沢市議会議員に立候補、2 期 8 年 市会議員として活動してきました。引き続き県会議員に当選、現在 6 期目です。

民医連ではたくさんの経験をさせていただき、学ぶことができました。MSW としての相談活動をはじめ、障害者運動、訪問看護、生活と健康を守る会などの一つ一つが議員活動にいかされ役立っています。県政にも生かされています。また、いつも暖かくはげましてくれた患者さん、地域の皆さん、そして職場の仲間の皆さんには感謝しています。

今回 OB 会に入会することになりました。よろしくお願いいたします

埼玉民医連退職者の会  
第 26 回総会

47 名が 楽しく 懐かしく  
初参加は 6 名

26 回総会は、2 月 28 日医療生協さいたまふれあい会館で開かれ、47 名が参加しました。うれしいことに第一世代の肥田舜太郎先生、高橋昭雄先生、権田圭助さん、寺島萬理子先生のお元気な顔が揃いました。茨城からは山形文子先生、総会初参加は清水禮二先生、山田稲子さん、阿久沢正明さん、杉江信子さん、鈴木智子さん、深田澄子さんの 6 名、大きな花が添えられました。議長に海老塚利明・栗原和子さん、書記に前田



富田孝博会長

文代さん選出しました。富田孝博会長は安倍政権の進める戦争法案廃止の戦い、2000 万署名を大きく広げ、7 月の選挙で勝利めざして頑張ろうと呼びかけました。民医連退職者の会全国連絡会、埼玉民医連山田昌樹会長のメッセージ紹介ののち、伊藤岳参議院予定候補の妻・伊藤安江さん（医療生協さいたま本部職員）が見え、事務所を開設、インターネットを使い新たなつながりをつくり

活動していること等を紹介、伊藤岳候補のメッセージを紹介しました。喜寿のお祝いは杉江信子さん、田中チエ子さんの 2 人、出席した杉江さんに富田会長から贈られました。

第 1 号議案—2015 年度活動のまとめ、16 年度活動方針を小川事務局長。第 2 号議案—15 年度決算報告、16 年度予算を小嶋幹事、会計監査報告を権田会計監査。第 3 号





伊藤岳候補に代っての挨拶  
伊藤安江さん

議案—16年度役員を富田会長が提案し討議に入りました。4年ぶりに参加した鹿又雅子さん、退職して12年、6回目の年男だと若杉博さん、武内優さんからは80歳以上が8.2%という年齢構成、若い人たちに戦争体験を伝えていきましょう等の発言がありました。また、配置薬事業の日野事業部次長から、配置薬事業への利用協力をお願いが紹介されました。すべての議案は拍手により採択され、岡部和子幹事の閉会の挨拶で第1部を終了しました。

休憩中に全員の記念写真、西村米子さんの司会で進められた「作品展」は、製作者から一言いただきながらの紹介。フロアからは退職後の趣味の世界はすごいなーと感心の声も。金子仁志さんの映像による15年度の活動やホームページの紹介がありました。



みんな揃っての一枚 うれしいですね。

2部交流会は深田澄子さん、小田政満さん二人の司会で進められました。高橋昭雄先生の音頭で乾杯、2回目の心筋梗塞をしたが、脳の血管もバルーンを入れて広げるなど今の医療技術は素晴らしい。長生きしていきましょうと挨拶。

\*梅原恭子さんは大正琴を演奏「影をしたいて・さくらさくら」  
(梅原さんのこんな真面目な顔 初めて見たよ・・・の声も)



🌸 皆さんのひとことから 🌸

\*阿久沢正明さん；埼玉を退職後は東京を彷徨っていたが、途中で大事故を起こした。

雪が降ると嬉しくなるが右肘が機能せず、雪山にもスキーにもいけない。怪我の後遺症だけでなく、胃・食道・膀胱がんなど抱えているが悪運は強いと思っている。昭雄先生、文子先生等懐かしい人達に会えてよかった。

\*杉江信子さん；80歳に向けてハードルを上げていく。退職後、娘の住む世田谷で長く暮らしていた。これからも頑張らなくては。

\*清水禮二先生；昨年仲間に入れてもらった。65歳となった。寺島先生の実践や梶原先生には生半可な仕事ではないと医師としての精神を教えられた。週1回協同病院を手伝っている。運営は大変だけれど患者の人生がかかっていると感じている。今まで培ったものを試されている。

\*鈴木智子さん；親に反対されながら民医連勤務40年、昨年10月に退職した。元気がとりえだったが臍臓が悪く手術をした。体力の無さを実感、病んでいる人への働きかけを学んだ。肥田先生はすごく偉く大きな人と思っていたが、老建みぬまで出会い今年も広島に行けるよう楽しみながら支援を考えている。

\*肥田舜太郎先生；埼玉民医連の集団は、職員一人ひとりがひとつの目標に向かって創ってきたもの、患者のためということでもとまりは出来ていると思っている。会長として難しいことを言ったり、押し付けもあったと思うが、同じ方向に固まり感謝している。100歳になる人生を全うする。

\*山形文子先生；開業して10年が経ち、医師会の副会長をしている。日立の人口減は第2位、街も元気が無く、医師会でも年齢で辞める人も。医師数も少なく課題も多い。母は89歳で物忘れに付き合いながら二人暮らしをしている。

\*高橋喜長さん；埼玉民医連の皆から元気をもらっている。自転車に乗れず歩きも難しいが、明るい街づくりなどの活動に参加、電話かけなどできることをしている。

\*島田喜久江さん；毎回楽しみに参加している。週4日デイサービスで働いている。畑仕事をしたり、老人ホームのボランティアなど、今出来ることをしている。

\*高橋正幸さん；33歳で埼玉協同病院で勤めるきっかけは東田さんです。稲村先生と三人で話をし、その後作業療法士として内定したと聞きびっくりした。良い病院だと思っている。最近は物忘れがひどくなった。

\*中村雅子さん；保育園で働いていたが、病院のB2病棟看護助手として午前6時30分から午後2時30分まで仕事をした。組合員として支部運営委員として活動している。娘も病院で看護師をしている。

\*木内恭子さん；当時は基礎の出来ていない埼玉協同病院だったので戸惑ったのも事実。悩みながらの手術室10年間だった。9歳で被爆した。埼玉に1900名いる被爆者がどのような状態で生活をしているか503名の状況を把握した。頑張っていきたい。

- \*伊藤英子さん；スポーツクラブに行っているが足を上げるくらいです。（すごいという声）防衛医大で本の貸し出しボランティアをしている。
- \*石丸乾二さん；総会資料のA3のカラー写真はしらさぎ会のコピー機を借りた。割ときれいに出来たと思っている。
- \*川合省さん；退職して7年。目が悪くなり山を登っても怖く、手を使い足を下ろしている。一日中家にいるとアツレキもあり旅行に行っている。又お会いしましょう。
- \*荒垣克己さん；63歳になった。2015年4月から放射線技師に戻してもらい健診センターで50名から90名の写真を撮り1年過ごした。いまは医師関係の仕事もしているが放射線一本にして仕事をしたい。

🌸 今年も力作が そろいました 🌸



籠飾り バラの花 深田澄子



自作を語っての説明

染織  
山田稲子さん



クラフトバック 川口恵子さん



総会参加 私の感想

★ 川口 恵子さん

総会に参加すると、懐かしさとともに、今もなお、皆様お元気で、仕事に趣味にと頑張っておられる様子がうかがえて、更なる刺激と勇気をいただいた気がします。

今年初めて「私の作品展」にクラフトバック 4 点を出展しました。

私も頑張って充実した日々を過ごしていきたいと決意を新たに帰ってきました。

★ 梅原 恭子さん

何よりも、肥田・高橋・寺島・権田さんのお元気な姿と発言に励まされた 1 日でした。OBの方々がそれぞれの地で“いま自分ができる最大限のこと”を仲間と共に歩んでいる発言も多く、大いに頼もしくうれしく思いました。作品展は現役時代には想像すらできなかった皆の一面を見ることができ、とても良い企画ですね。

★ 清水 禮二先生

昨年退職し65歳を迎えようとしています。同窓会で日頃会えない諸先輩に会えて懐かしく振り返ることができました。

私は、しみずクリニックふさ理事長として働き続けています。さわやか外来（禁煙外来）、息いき外来（睡眠時無呼吸外来）、産業医活動、患者会、健康教室など生協時代に培ったものをそのままクリニックで展開しています。昨年は運動施設ロコモステーションふさを建てました。川診、所診、西協同でディケアを開始した経験があったからこそ通所リハビリやフィットネスをはじめの事が出来たと感じています。

いま、つくづくありがたさを感じているのは生協で育った仲間を支えていただいている事です。職員の多くが生協を退職した人や関わりのあった人達です。また、患者さんとして応援して下さる職員、退職者も多くいます。生協のようなダイナミックな動きはできませんが、患者が健康の主権者として据えられた診療、職員ひとりひとりの力が発揮できる職場を目指して頑張り続けたいと思っています。

今後とも生協の仲間としてお付き合いよろしくお願い致します。

総会ひとことメッセージ（追加）



★ 赤坂 京子さん

私用に総会に参加できず残念です。OB会だよりはいつも楽しく読ませていただいています。ありがとうございます。私は仕事の合間に、登山、スキー、トールペイントを楽しんでいます。1年前より母の介護も加わり、まだまだ忙しくしています。

★ 水野 ひさ子さん

返信が遅れて申し訳ございません。

皆様とご一緒に戦争のない平和な暮らしを守っていききたいと思っています。



お久しぶり！！ なつかしいですねえ・・・  
いつまでも いつまでも 話はつきません



当日のお弁当  
おいしかった！

民医連退職者の会全国連絡会・結成 25 周年  
第 13 回全国総会開催のご案内

日時 2016年5月16日(月) 13時30分～17日(火) 正午まで

会場 横浜市・中華街「ローズホテル横浜」

\* 参加希望者は役員まで連絡ください。皆で行きましょう！



### 3・1 ビキニデーに 行ってきました

早田 繁

2月29日、3月1日と1泊2日で、2016年3・1ビキニデーに行ってきました。

久保山愛吉さんの墓前行進に1,500人、全体集會に2,000人、埼玉から45名の参加でした。昨年は雨でしたが、今年は晴れて快適に歩くことができました。全体を通して今回の特徴は4点かなと思います。

1つめ、昨年のNTP再検討會議から発して秋の国連總会で決議された作業部會が2月に開かれました。

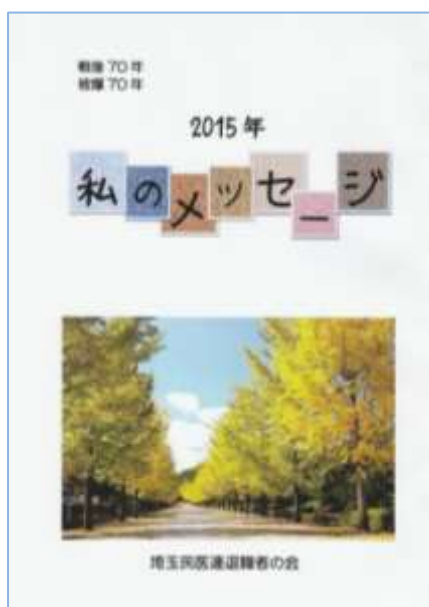
世界は着実に核兵器廃絶に向かって機運が高まっているのを感じます。

それにしても日本の政府はダメですねえ。

2つめ、マーシャル諸島共和国の前外相が発言しました。2014年に核保有国9カ国相手に訴えた国際司法裁判に3カ国（英、印、パキスタン）が応じて3月に口頭弁論が始まるとのことでした。この時の発言は格調高く深い感銘をうけました。

3つめ、ビキニで被爆したのは第5福竜丸の他にも1,000隻にのぼる漁船がありました。日米政府は身体検査などのデータをひた隠しにしてきました。60年経ってようやく明るみに出て、高知県の人たち10人が労災申請しました。さらに国の責任も問う準備をしているとのことでした。

4つめ、署名が変わります。被爆者が前面に出た署名になります。広げていきましょう。



### 戦後70年・被爆70年 「私のメッセージ」集を読んで

2月のOB会總会で配り始めた「私のメッセージ」集への感想をたくさんいただきました。

今号は通常より4ページ増やして16ページにして、皆さん全員の感想をとりましたが、それができないほど、たくさんいただいています。今回載せられなかった方は、申し訳ありませんが次号でお届けします。

## 私も書けばよかった！



川内 正子

本をいただいた時すぐに「あー、私も書けばよかった」と思いました。

1950年、私は広域合併した広島市に生まれた。母の姉は県立病院で看護師として被爆し亡くなった。母が認知症になる10数年前、生き残った同僚の方が遺族の手記を出版され初めて読んだ。その中で祖母が見つからない娘を探しに行くという祖父が「お前はこなくていい」と怒った。その意味が市内に入りすぐわかったと書いていた。実はこの部分しか鮮明に覚えていない。しかし祖母は戦中、戦後と生き抜き、100歳になる4か月前に亡くなった。我が祖母ながら強いなと思う。

皆さんの「私のメッセージ」も一人一人の生きざまが生々しく、一人一人の思いがあらわれていた。また、それぞれの方が人生が多彩で、知らなかったことを多く学ばされた。記録に残す重要性を再確認した。

久しぶりに見たテレビ「報道ステーション」で日本国憲法についてやっていた。戦争放棄を日本国憲法に盛り込んでくれと言ったのは、その時の総理大臣だったと。

日本側・米国側の記録を紹介していた。このことを安倍首相は知っているのだろうかと思つた。周囲の状況が変わったからと憲法は変えていいものではない。国の根幹をなす指針なので永遠に不滅なものだと思つた。

2月の中旬、写真教室をやっている夫も「あつきおもい」と題し4回目のグループ展を開催した。戦後70年を個々人がどんな思いを持って受け止めたか。それぞれに写真を通じて見つめ表現していた。今までで一番良い写真展になったと夫は話していた。

これからも平和な日々がずっと続くように微力ながら携わっていきたい。



## 「戦後70年に際してのメッセージ」を読んで

高橋 昭雄

この度の「戦後70年に際しての私のメッセージ」の発表は、各会員はもとより現役の職員や会員の家族も多大の関心を持って読まれたのではないかと思います。

この50人の会員が70±何年までの思いはそれぞれですが、誰かに伝えたい存念が満ち溢れて迫力を感じます。

私はメッセージを記した会員の義務教育年ごとに分類して、

1. 戦前派は 1941 年（昭和 16 年太平洋戦争の開始）までの旧小学校の義務教育の人のメッセージで肥田先生を始めとして 14 人
2. 戦中派は 1942 年から 1946 年までの国民学校の義務教育人のメッセージ 朝妻幸平さんを始めとして 10 人
3. 戦後派 1947 年以後の新小学校の義務教育の人のメッセージ 青柳伸二さん为先頭に 26 人

に分けて、それぞれの特徴があるか検証してみました。

#### 各派ごとの特徴

1. 戦前派 この集団は大正末期から昭和のはじめごろの生年集団で、戦争でいうと満州侵略の満州事変、支那事変（中国侵略戦争）とアジア太平洋戦争の経験で軍国主義政治の戦傷をうけたりした直接犠牲者や、同胞や多くの友人を失い、戦後の民主政治への変換に順応する喜びも大きかったが、食料を始めとして生活物資の欠乏や家族の擁護に神経をすり減らした大変な苦勞をした集団です。
2. 戦中派 この集団はアジア太平洋戦争の渦中で、戦争のための空襲や食料不足、学童疎開や家族の消滅と、侵略地からの内地までの引き揚げなどで大きな恐怖と混乱と悲しみの中で育った集団です。
3. 戦後派 この集団は戦後の平和環境の中で生育した集団で、戦争での瓦礫などの荒廃した環境と食糧不足や、人間倫理の荒廃した環境と、米国への従属化した政治と異質の文化の流れの中で育てられた集団だと私は思っています。

さて、それぞれの集団のメッセージで印象に残った点を中心に触れてみましょう。

戦前派 やはり先頭は肥田舜太郎先生の反核のたたかいで、入市被曝と内部被曝が重点での記載が目をつきました。肥田先生は 8.6 の被爆後から被爆患者への対応や、米国の ABCC との交渉から、やがて欧米を反核運動の先頭にたって行脚して回った国際的にも有名な反核平和運動の闘士ですが、98 歳の身で最愛の夫人を亡くした悲しみから再起して、日本の被爆者の代表としてなお、人類の存亡を左右しかねない原爆を地球上から消滅させるために、自分の生涯の責務として戦い続けている姿は被爆死者たちの化身を彷彿させるものがあります。原発廃止運動にもその影響が及んでいるでしょう。

また石原さんは、安倍一派が日本憲法が米国からの押しつけ憲法などと、平和主義の第 9 条を改変するためのデマゴギーを振り回しているのを阻止するために、「歴



史の叡智が作った憲法」として、駐留のアメリカのGHQが日本政府の新憲法草案がポツダム宣言に対応できないので、日本の鈴木安蔵の「憲法草案要綱」を下敷きで作成して、各条項の自由権や社会権・平和主義などは、それぞれの出典を提示して作成に漕ぎつけたとの説明は、やたらな憲法改悪を阻止する不抜な力になることです。

それと見逃せないのは大久保さんの「埼玉における沖縄返還同盟」の運動の歴史的な情報開示は、現に戦っている「辺野古米軍新基地反対」のたたかいと関連して、それに繋がる日本国民のたたかいの歴史的なエネルギーとして、無言の支援を現地に送る大切な報告です。大いに宣伝したいです。

この運動は私は知りませんでした。

また医療問題として石田さんが、全くの無医村に農民組合と大井診療所の力を合わせて富岡診療所を建設して、浅岡先生と東北からの伊藤淳先生の力で、医療過疎地の純農村に医療の灯を



点じた苦労も報告されていますが、今の若い世代に昔の必死のエネルギーを知ってもらう大切な歴史的な報告だと思えます。またそれは、戦後いち早く大島慶一郎先生が大井村に移住して、戦後の農村の実動力が兵士として徴兵され荒廃しきった生活状況と医療消失の惨状を改善するために、積極的な活動を開始して、やがて民主医療機関の組織づくりを進めたことがその背景にあります。

またこの世代で落とせないのはレッドパージの被害です。これは権田さんが力を入れて報告されていますが、これは戦前の治安維持法に匹敵する悪法で、労働運動にも文化分野にも多大な否定的影響を及ぼした犯罪行為ともいえるもので、個人の一生も左右したものです。

そして何よりもこの世代の若い兵士達が230万人以上も戦死と飢餓死した悲劇を、自分たちの家族の中から経験した現実を、己が身に刻んだ世代だと高橋喜長さんが言っています。この世代の念願は「憲法が改悪されたら自分の生きていく意味がない」とまで主張しています。これが「9条死守」の世代なのです。

戦中派は10人です。この世代の特徴はほとんどが戦争のために社会が混乱した中に生まれた悲劇の世代と言えるでしょう。戦火を避けるための遠距離の「疎開」の苦しみを味わいました。そして貧困と食料不足のための栄養失調と直接の戦火の中を生き抜いたことでしょう。岡部和子さんは広島原爆資料館の見学や、長崎の被爆者との交流をして原爆問題の理解を深めたそうです。小田さんは家族の働く場がなくなり、自分も定時制高校と働き場の住み込みでの苦難の生活を吐露しています。

原爆被害も避けられなかった世代です。木内恭子さんは小学4年生で8月6日の原爆を爆心地より1.6kmで被爆したが奇跡的に助かったそうです。そして自ら被爆者として被爆の実相と、核兵器の全廃運動を自らの使命として活躍していられるようです。



戦後派は26人です。戦後の新憲法のもとに生まれてきたが、まだ敗戦国の混乱と生活の苦難は多く残っていました。戦争の暗雲は晴れて、生き残った兵士も多く傷つきながらも、ともかく「復員」として故郷にたどり着いた兵士を迎えた家族の喜びはそれは深い安心が渦巻いた一面、戦死したり詳細不明の兵士の家族はそれは言い表しきれない悲劇の中にあっただけで、社会の様相は混乱の中がありました。しかし家族の復員で新しい世代が多く誕生して、全体では人間社会の復活の希望としての戦後団塊世代が迎えられたわけです。

ですから、そのメッセージも明るく快活な色合いに染められているようです。阿部テイさんは「これからは自分たちで普通に働いたら、普通の幸せになる世の中をつくるんだ」と希望を見出した決意を述べています。しかし、食糧危機で米国の余剰小麦の応援もあり、学童の給食も試みられたりしましたが、まだ老人や幼児などの飢餓死が無視できなかった側面もありました。

それでも新憲法の発布によって未来への保証が築かれた安心になったわけです。荒垣さんは自らが「戦争を知らない世代」の希望の歌を大声で歌っていたら、大人から「平和ボケ」だと叱られた回顧を述べています。だけど「平和を歌うことしか知らない世代は、生きられることを訴えているのだ」と自分で納得しているのだと言います。本当にそうだと思います。

また、伊藤幸夫さんは安倍派の「平和を保つには戦力を備えて実力行使の可能性こそが戦争の抑止力」にならばばかりの主張に対して、「我が国の紛争の防ぎ方は9条を高く掲げてねばり強い対話と外交」こそが真の抑止力であると言い切っています。「昔から武力と武力の競争が混乱を挑発してきた人類の教訓で、高い知性と優れた洞察力を備えた人間の外交力が何よりも優先されるべきだ」というのが9条の意味だと、言外に主張しています。そして、この世代こそが人類の最大の愚行である「戦争」をなくし、優勝劣敗の法則の社会を人類のすぐれた知性と倫理で、永遠の和の協同社会に作り変える人類の使命を実現する可能性であると私は思います。その歌声がこのメッセージ集の中に見出せます。

2016.3.22





## 編集にかかわって

仲村 敬子

出来上がった「メッセージ集」を手にした時、ひとしおの喜びがありました。埼玉民医連OB会の力を感じました。「あとがき」にも書きましたが、原稿を寄せてくださったみなさんに心から敬意と感謝です。

60年もの昔、私を埼玉民医連に紹介した医学部の友人は、しょっちゅう家に遊びに来て泊り、夜ごはん朝ごはんを一緒に食べていました。その頃私は、すぐれた探偵の助手になるというのも夢でしたが、彼女は「あなたは助手としては一級の助手になれるだろうけど、探偵そのものにはなれない」と言っていました。よく私を現している言葉と思い、覚えているのですが、今回も編集のおかしらのよき助手であることはできたかなと思っています。出来上がってから思うことですが、もう少し声かけをして書いてくださる方を増やしたかったなーと思います。誰もがかけがえのないその人の「テーマ」をもっているわけですから。

このメッセージ集が、読み継がれ語り継がれて、「平和」への力づよい役割をになうと信じています。



### 県外の仲間から

## 戦争、いのち、貧困、家族、民主主義への70年 大胆・率直、感動あふれる50人のメッセージ

川口 貞勝（全国連絡会事務局長）

埼玉民医連退職者の会が2016年1月25日に発行された「戦後70年 被爆70年 2015年私のメッセージ」という装幀の美しい心のゆきとどいた冊子（B5版、78ページ）を、3月1日に小川祥江さんから頂き、早速読ませてもらいました。

1966年1月1日に全日本事務局に入職した私が、埼玉民医連の人で最初に知り合ったのは、おケイちゃんこと仲村敬子さん、肥田先生、荒井光明さん、宮沢良行さん、大島先生の順であったと思いだしています。現役時代にお付き合いのあった人は本冊子に登場する50人のうち11人の方々と、その人たちの分から読み始め、2日ばかりで読了（実質4～5時間）しました。感想は標記の通りですが、どの文章も「いのちと健康」「反戦・平和」に貫かれた民医連の苦闘と息吹にあふれ、感涙なくしては読めない。しかも、力強いメッセージばかりでした。輝ける次世代への、人間味あふれるメッセージにな



っていると心から敬意を表する次第です。一時期、埼玉は「ダサイ」などとマスコミで言われていた時もありましたが、いま埼玉民医連退職者の会は、文化的にも社会的にも、政治的にも完全に乗り越えて前進しておられます。引き続きのご活躍を祈っております。民医連の絆は不滅だと言えるのではないのでしょうか。



## 争」を すべての世代が知る 大切な一助に

菅原 勝雄（神奈川の会事務局長）

このたび、日頃民医連退職者の会全国連絡会の縁で、小川祥江さんから貴会の「2015年私のメッセージ」をいただき、拝読させていただきました。50名の会員の皆様が寄稿された「戦後70年・被爆70年」への思い入れの深さを、50名の皆様から受けました。私自身も1940年（昭和15年）生まれで、敗戦後の川崎の街の中で、毎日ひもじい思いをし、栄養失調からか顔面から体中、いつも「おでき」が出てきて、それはひどい思いをしました。自分でもあの世の中で良く生きてきたものだと、改めて思い起こしています。同じ時代を生きてきた皆様と私の体験が重なり、朝妻様、阿部様、荒垣様、小田様には私もうなずきながら拝読、とりわけ藤田悦子様一家が身体を寄せ合い、父親が戦死した中を必死に子供達を守り抜いた母親を暖かく描き、どろんとした芋粥を「忍術」と合言葉で語られているなど素晴らしい家族だったのだろうと感じ入りました。

あらためて戦争は人間が生きていくすべてを奪うものだということを、今こそすべての世代が知ることの大切さを、そのためにこの冊子が一助になることを願っています。

それにしても、この冊子を出版された貴会の力強さを改めて感じ入っています。ありがとうございました。

現役から

### 「戦後70年被爆70年

### 2015年私のメッセージ」を読んで

医療生協さいたま 看護分野統括部長

埼玉民医連副会長 全日本民医連副会長

牛渡 君江

「戦後70年被爆70年 2015年私のメッセージ」を読ませていただきました。OBの皆さんのメッセージは、富国強兵政策の現実、戦争から生み出された貧困、逆境の中でもたくましく生き抜く人間の強さ、いのちにまっすぐに向き合う心の優しさ、アメリカ言いなりの政治へ対峙する闘志など、リアルに心に響いてきました。職員育成の

貴重な資料として大いに使わせていただきたいと思います。

昨年の戦争法反対で幅広い人たちとつくった運動が、夏の参議院選で安倍政権を打倒しようという動きになっていることに確信を持ちつつも、戦争したがる政治家等の分断活動ともいえる動きがあります。私の花粉症が長引いているのもそれらの影響でしょうか？ 体内からの免疫力を増強させてがんばります。



戦争法案反対の国会前行動には、埼玉民医連看護部が、若手からベテラン、管理者まで、仕事が終わってから自発的に救護班として継続的に参加してきました。これはとてもすごいことで、全日本民医連の理事会でも話題になりました。

このような自発的な行動が生まれた背景には、長野の無言館・山宣の碑・松本大本営見学研修、福島原発被災地研修、岩手仮設住宅訪問(毎月)、沖縄・辺野古支援など、数えきれないくらいの現地研修を繰り返し、五感を使って学んできたことがあります。自発的な救護班への参加はそれらの努力が実った瞬間でした。

SEALDsの奥田愛基さんは民医連のインタビューでこのように語っています。「(この集会の) その裏で、必ず救護のゼッケンをつけて行動を支えていた人たちがいた。多くの医師、看護師などが、仕事の後に参加し、デモを支えた。この活動こそ、医療の原点、命を陰で支える、医療のあるべき姿だ」と。OBの皆さんもそうだったように、私たちもこのような運動を通じていのちを支える民医連職員としてためされ、鍛えられていると考えています。だからこそ、継続のためのエネルギー(知恵と力)が重要だと思います。皆さんから力をもらって、今年の歴史的な夏を乗り越えたいと思います。



うれしい悲鳴です。OB会だよりの編集にかかわるようになってから9年、

原稿が足りないということは時々ありますが、通常より4ページ増やしてもまだ掲載できなかった原稿が手元。「私の近況」「気軽に一枚」「メッセージ」の感想などいくつかの記事が次号となってしまいました。せっかく原稿をくださった方には申し訳ございません。きれいに咲く桜を眺めながら、4月号をお届けします。(よ)